

県内唯一のインテリア科

存続へ積極アピール

水沢工業高 ぎょうまで学科展



多くの人たちでにぎわう県立水沢工業高校のインテリア科展

生徒の割合が、他の工業系学科より高い。工芸品や家具製作のほか、デザイン事務所、建設業界で活躍する人材を輩出している。現在は1年生18人、2年生33人、3年生34人が在籍している。

40年以上の歴史を誇る同展は、卒業を控えた3年生の学習成果を中心に、1、2年生の作品を市民に紹介する場。建築図面に取り組んだグループは、設計条件を基に設計図や建築模型を組み立て。条件を満たしつつ、快適さの確保などを独自に考え、設計に反映させた。家具製作のグループも、使いやすさなどを考慮して組み立てた。「在校生の親や卒業生も駆け付けてくれて、いるほか、中学生の子を持つ市民らも訪れ、どのような勉強が得意なのかなど情報交換の場にもなっていると同科総務部の佐藤雅彦教諭。「県内で建築を専門に学べる高校は次々と姿を消し、現在は盛岡工と久慈工、県南では本校のみ。インテリア科という学科も本校だけであり、当該分野の人材を育てる上でも決してなくしてはいけない学科だ」と訴えていた。

最終日の22日は、午前10時から午後4時まで。

県立水沢工業高校(日嘗仁三校長)の第43回インテリア科展が21日、水沢横町のメイプル4階産業文化ホールで始まった。25(令和7)年度以降に、県立一関工業高校と統合する予定の水沢工。県内唯一のインテリア科を統合後も存続させようと、在校生たちの成果発表にとどまらず、学科の魅力や地域住民や進学予定の中学生らに積極アピールしている。同展は22日までで、入場無料。

1968(昭和43)年の開校時に設置された「工芸科」が、5年後に現科名に改称した。もともと南部鉄器や岩谷堂筆筒に携わる人材を育成する目的で開設した科だけに、芸術志向の強さが特徴。女子